

早稲田大学坪内博士記念

2012年9月21日発行

演劇博物館

THE TSUBOUCHI MEMORIAL THEATRE MUSEUM

107

Volume



「不滅の俳優 池部良の世界」展
現代演劇シリーズ40弾 「グローブ座」展
「八代目市川團十郎」展
「Finding Shakespeare」展

現代演劇シリーズ 第39弾

「つかこうへいの七〇年代」展 〈報告〉

会期 二〇一二年三月一日(木)～八月五日(日)
会場 三階現代コーナー



VANのTシャツを着て稽古する
根岸季衣 (撮影：杉全泰)

空白部分の掲載記事は “演劇博物館”107号をご覧ください。

料品メーカーVANジャケットの打ち出す「アイビー・ファッション」は、当時の若者たちの憧れの的でした。そのVANが一九七三年、本社の置かれていた東京青山のビルの一階に小さなイベント・スペース「VAN99ホール」を開場します。VANの社長石津謙介が、前年にパリを訪れた際に見た、ピエール・カルダン所有の劇場「エスバス・カルダン」に刺激されて作ったホールです。座席数99席、入場料も99円でした（後に改定）。ジャズや落語、映画の上映会、ボクシング等、様々なイベントが行われました。

99ホールのスタッフだった北吉洋一は早稲田劇研の出身でつかとも面識があり、つかにホールへの出演を要請します。つかもそれに応じ、「暫」から離れ「つかこうへい事務所」としてこの劇場で公演を行うようになります。一九七四年から七五年の二年間に「飛龍伝—そしてカラ



VANの紙袋とTシャツ

ス—」「巷談 松ヶ浦ゴドー戒」「ストリップバー物語」「定本熱海殺人事件」などの旧作・新作を上演しますが、特に「ストリップバー物語」は新人の根岸とし江（現・季衣）が主役を演じ、観客に鮮烈な印象を残しました。毎公演、定員の倍の二〇〇名近くの観客が場内を埋め、99ホール前の青山通りには長蛇の列が出来ました。つかと若い俳優たちの集団は、徐々に学生劇団からプロの劇団へと変容していきます。

またこの頃から数多くの劇団が、関東・関西を問わずつか作品を上演するようになります。俳優加藤健一もそうした劇団の一つで「熱海殺人事件」を演じていたところ、つかの目に留まり、以後つか事務所の一員として七〇年代のつか作品の重要な役を務めていくことになりました。

〈関連年表〉

一九七三

東京青山にVAN99ホール開場

一九七四

八月 「飛龍伝—そしてカラス—」（99ホール ※九月に追加公演あり）

一〇月 「巷談 松ヶ浦ゴドー戒」（99ホール）

一九七五

四月五月 「ストリップバー物語」（99ホール）

九月 「定本熱海殺人事件」（99ホール）

一〇月 「巷談 松ヶ浦ゴドー戒」（99ホール）

一一月 「ストリップバー物語 惜別篇」（99ホール）

〈展示資料〉

○VAN99ホール入り口写真 [VAN SITE]

○「THE VAN PRESS」(99ホール関連記事掲載号)

2. 青山・VAN99ホール 一九七四—一九七五

一九六〇年代から七〇年代にかけて、男性衣

- 九点) [VAN SITE]
- VANジヤケットの紙袋 [VAN SITE]
- 「We Love Sports VAN」トニャン [VAN SITE]
- VANのTシャツを着て稽古をする根岸季衣写真 撮影・写真提供：杉全泰
- VAN99ホール場内写真二点 VAN SITE
- VAN98ホール「COUNTRY&FOLK SHOW/ROCK&SOUL SHOW」プログラム [VAN SITE]
- VAN99ホールで行われたパーティー招待状 [VAN SITE]
- 「VAN99 HALL DAY (九月九日)」に行われたコンサートのプログラム [VAN SITE]
- 「巷談松ヶ浦ゴドー戒」舞台写真(99ホール、一九七五年一〇月 再演) [個人蔵]
- 「飛龍伝―そしてカラス」舞台写真・大(99ホール、一九七四年八月) [石津事務所]
- 「飛龍伝―そしてカラス」舞台写真・小(99ホール、一九七四年八月) [個人蔵]
- 雑誌「好奇心」創刊号(一九七六年六月) [個人蔵]
- 「ストリップパー物語」舞台写真(99ホール、一九七五年四月、五月)
- 「定本熱海殺人事件」舞台写真(99ホール、一九七五年九月)
- 「定本熱海殺人事件」チラシ(99ホール、一九七五年九月)
- 「巷談松ヶ浦ゴドー戒」再演時チラシ(99ホール、一九七五年一〇月)

空白部分の記事は
“演劇博物館” 107号をご覧ください。

